

福マネット

<発行日>
令和4年10月1日

第25号

「福マネット」とは“福島ケアマネジャーのネットワークを深めていこう!”という思いが込められています。

巻頭言

会長

菊地 健治



会員の皆様には、当協会の運営に対しまして、ご理解とご協力をいただいておりますこと感謝申し上げます。

今年度より法定研修がコロナ禍のため、完全オンラインとなりました。受講者の皆さんには不安と戸惑いながらの受講となっていますが、資格の担保をしていくための研修であることをご理解いただきたいと思います。

運営側である当協会としてもオンライン研修は初めてのことで、未知なる研修形態に四苦八苦しながらも資格担保していただくために取り組んでいます。

最近、思うことは終活という二文字ですが、自分自身や自分の親の終活について、皆さんは家族会議をしていますか。終活について話し合われていても、介護についてはどうするかなどなかなか話し合われていないように感じます。

私たちが要介護状態となった本人やその家族と話しても、どうしたらよいのかわからないのが、本人や家族の本音ではないでしょうか。

私たちは要介護状態になったら必要になるということではなく、要介護状態になる前に

どのような介護を本人やその家族が望んでいるのかを話し合ってもらっておく必要を伝えていくことも私たちに課せられた役割の一つではないでしょうか。つまり、介活（介護活動）の必要性を伝え、そのアドバイスをしていくことがこれからの介護支援専門員に求められる役割になるということだと思います。

まずは自分自身の家族から考えて、家族会議をしてみてもいかがでしょうか。いろいろと気づく点があり、ケアマネジメントの奥深さを感じ取れるかもしれません。

その際に感じることは、本人の望む介護と家族が望む介護が違っている点です。私たちは本人が望むことをどのように達成させるかを考えるのは当たり前、しかし家族が考える介護は家族の都合というとらえ方になっていないでしょうか。どうしても家族が介護したいという場合は、それに寄り添った介護を考えればいいのかと思います。家族は親が要介護状態になったときにこれまでのライフスタイルを変えていかなければならないということが、実はなかなか受け入れ難いところなのだと感じます。いかにライフスタイルの変化を小さくして、本人と家族が生活を維持していくかを一緒に考えるのも私たちの役割となるでしょう。

とりとめの話となりましたが、終活と介活について私たち介護支援専門員が理解していくことも必要です。ぜひとも考えてみてください。それができるのも介護支援専門員であるからです。

目次

巻頭言.....	1
福マネットリレー “結”	2
ケアプラン点検事業について.....	2
オンライン研修を受けて.....	3
災害時における介護支援専門員の役割.....	4
賛助会員紹介.....	4

ハイライト

- ◆菊地会長から皆様へ
- ◆全会津の“結”
- ◆さらに進んだ研修会のカタチ
- ◆災害時における介護支援専門員の役割

福マネット リレー



全会津介護支援専門員協会
副会長 遠藤 正子

「会津」と聞くと、皆さんはどんなイメージを持ちますか。

会津若松市、喜多方市、大内宿等に代表される歴史ある観光地や、裏磐梯、尾瀬、只見線沿線等、四季折々の自然美あふれる景観、レジャー、スポーツなどに魅了されて訪れる人も多いのではないのでしょうか。

そんな自然豊かな会津・南会津全域を網羅している『全会津介護支援専門員協会』は会員数370名（9月20日現在）と県内地域協議会一の大所帯です。当協会は年一回の総会と年二回の会員研修会を中心に活動しています。研修のテーマは会員へアンケートを行い、その中から希望が多かったものやその時期に適したテーマを選んでいきます。

新型コロナウイルス感染症拡大前までは集合研修を行い、会津全域から集まった会員同士が久しぶりに会った仲間と交流を持ったり、情報交換をする場面が多くみられました。

新型コロナウイルス感染症拡大後の昨年からリモート研修となり、今まで遠くてなかなか参加できなかったり、複数名での参加が難しかった事業所に所属している会員の方々も研修に参加しやすくなったように思います。

今年度の法定研修から完全リモート研修になったため、令和4年度総会後の研修では「Zoomの使い方」の講義を行いました。今後も会員の実務に役立つ研

修を企画していきたいと思います。

会津全域の課題としては、中通り、浜通りより高齢化率が高く50%を超える自治体もあります。人口も減少しており、特別養護老人ホームでも定員割れの状態になったり、介護職員不足で入所者を受け入れできずに満床にできない施設もあります。

自宅で生活している方は都市部、山間部とも「高齢者単独世帯」、「高齢者夫婦世帯」、「高齢者と独身の子供との二人暮らし」が増えており、その周りの近隣住民も高齢化しているため、地域で支えるということが難しく地域力が脆弱化していると感じています。

私たち介護支援専門員は施設、居宅介護支援事業所、行政、地域包括支援センター等、働く場所は違っても、介護支援専門員自身が「地域での社会資源」であることを自覚し、ご利用者様本人やそのご家族等に寄り添い、住み慣れた地域でその人らしい暮らしが長く続けることができるよう支えていければと思います。



ケアプラン点検事業について

ケアマネジメントグループ 星 吉典

保険者が行う介護給付適正化の取り組みの一つとしてケアプラン点検が定められています。

ケアプラン点検について現状などまとめました。

①ケアプラン点検の目的

ケアプラン点検は、プランがケアマネジメントのプロセスを踏まえ、本人の「自立支援」に資する適切なものとなっているかについて、基本となる事項を介護支援専門員とともに検証し、確認しながら介護支援専門員の「気づき」を促すためのものであり、また、「自立支援に資するケアマネジメント」とは何かを追求し、その普遍化を図り、健全な介護保険給付の実施を支援するためのものです。（福島県ケアプラン点検の手引きより）

②現状について

- ・令和元年度から行っており年間20件位実施している。
- ・1居宅1ケース提出、担当者が点検した。
- ・未実施、自立型ケア会議に全居宅ケースの提出する事で同様の点検を実施。
- ・「〇〇を使っているケアプラン」と指定して点検。
- ・サ高住併設居宅を集中的に実施している。
- ・ケアプラン点検事業・実地指導合わせて行われている。

る。

- ・コロナウイルス感染対策により、書面点検だけ実施された。内容については市町村によって違う様です。私の事業所がある市はこれまで未実施でしたが、今年9月から開始すると連絡がありました。市が抽出した条件に合ったケースを担当するケアマネ（包括も含む）が資料提出、外部講師による点検となると説明がありました。

③ケアプラン点検に関して疑問など。

- ・1居宅1ケース提出し点検を受けている、条件に合ったケースの選定が難しい。
 - ・提出するケースの条件全てに該当する方がいなく、保険者に相談し提示された条件に1つでも該当すればOKになりました。
 - ・ケアプランの内容が分かる人がやるのかどうか、という人が来るのかどういったことを言われるのか。
 - ・自立型ケア会議との違いは。などありました。
- ケアマネジメントGでは今後、ケアマネジメントや制度改正に係る研修会など検討しています。

オンライン研修を受けて

特別養護老人ホーム梅の香 天野和加子

アラフィフになる頃から、パスワードやらIDやら。あ〜分らない世界だ。なにかあったら大変だから近づくのは止めようと…見て見ぬふりをして過ごしてきました。それなのに、今年度から、介護支援専門員の更新に関わる研修は、すべてオンラインで実施されると、第24号の福マネットで知り、とうとうこんな時代になってしまったと思っていました。

今回、主任介護支援専門員更新研修を受講しましたが、事前に受講前の研修記録シートを入力し、e-ラーニングシステムで学んだ後に、4日間オンラインで研修を受けました。Zoomを使っの研修は今回が初めてでしたが、事前に接続テストがあり、その中で、ミュートやビデオなどの操作方法を教えてくださいました。オンラインでの研修は、メインルームでの全体研修とブレイクアウトルームでのグループワークを中心に進められ、始まってしまえば、集合研修と同じで、グループ内の方たちの意見や考えを聞くことができ、こういう考え方もあるんだと、自分の思い込みを修正することができました。

研修後の課題を提出したことで安心してしまっていた私は、研修記録シートを提出することを忘れていましたが、何日までに提出するようにとメールで連絡が来て、あせって提出しました。このような場合のフォローも万全です。

ICT化の流れから取り残されている私でも、スムーズに研修を受講し、課題提出できたのも、県介護支援専門員協会の皆様と、研修の事務局、ファシリテーターを務めてくださった主任介護支援専門員の皆様のおかげと感謝しています。

医和生会居宅介護支援事業所 小林 悟

今年度より法定研修が全日程オンライン化されることで、当居宅介護支援事業所では私が先陣を切って主任介護支援専門員更新研修に参加させて頂きました。

最初のオンライン研修システムでの動画視聴は進捗状況が分かり、普段の業務と並行しながらの受講でしたが、計画的に行いやすかったです。その後4日間のZoomを使用した演習も講師の先生方、事務局の方、ファシリテーターの方がその都度演習についての説明をしていたので集中して取り組むことができました。ブレイクアウトルームを使用したグループワークは適度な緊張感をもちながら、活発な意見交換に参加させていただきました。実際に会わずとも、ファシリテーターの先生、受講者の方々の意識の高さを感じることができました。

研修全体を通して、最初の申込時より開始前から終了まで何をすればよいのか、抜けがないのか時期を見て都度、丁寧なメールでの案内があり、接続テストの機会もありましたので、安心して受講することができました。

研修を運営していただいた皆様方、本当にありがとうございました。今回学ばせていただいたことを日々の業務にて役立てていきたいと思いました。



オペレーター感想

ファミリー指定居宅介護支援事業所 清野公隆

法定研修がオンライン化となり、オペレーターは、オンライン上でファシリテーター、受講者をつなぐ役割として、受講者の回線トラブルの支援やグループワークの割り振りなどを行っています。オンライン開催では、受講者が一人での参加であるため、回線トラブルがあると、誰にも相談できず、混乱や焦りなどが生まれると思いますが、万が一トラブルが起きたとしても、まずは深呼吸を行い、心理的余裕をもつようにしてください。オペレーターは、受講者が見えない所で全体を把握しおり、回線トラブルがあれば、すぐに連絡し、インターネット環境の確認、オンラインの再接続、有線への切り替えなど、あらゆる手立てを伝え研修に戻ってこられるように努めています。オペレーターは、受講者を誰一人として取り残されないようにサポートするのが任務です。

今後研修を受講される方々に、各地域でオンラインでの研修が増え、事業所内のWi-Fi環境が整ってきているかと思っています。法定研修で回線トラブルが起きたのは、Wi-Fiでの電波状況の不良によるものが多かったように感じています。研修時間が長いことから、Wi-Fiでの接続よりは、有線で接続し、トラブルなく受講して頂ければと思います。



オンラインでのファシリテーターを経験して

二本松病院附属介護老人保健施設 安田晴絵

今回、主任介護支援専門員の更新研修でファシリテーターを経験させていただきました。今までも何度かファシリテーターをさせてもらいましたが、今回は今までとはちょっと違います。昨年度までは集合研修でのファシリテーターですから、同じ会場に講師の先生がいて、同じくファシリテーターをしている人がいて、受講生の方がいました。わからない事があっても、同じ会場にいる講師の先生や別のファシリテーターに助けをもらうことができました。でも今年の研修会は全てオンラインですから、もちろんグループワークもオンラインです。今までとは勝手が違います。ファシリテーターの事前説明を聞いた私の率直な気持ちは「私で大丈夫？受講生の方に迷惑をかけてしまうのでは？」と不安な思いで一杯でした。しかし、ファシリテーターを終えた今は「今までとは違ったとても貴重な経験をさせてもらえた。勉強になったし、本当にやって良かった」と思っています。研修会担当の役員の方や講師の先生方が、ファシリテーターのためにしっかりと事前の準備をしてくれていましたし、研修会当日もしっかりフォローして頂きました。オンラインでのファシリテーターに不安を抱えている方もいると思いますが、ぜひ経験してみてください。今までとは違った学びを得ることができると思います。



災害時における介護支援専門員の役割

東日本大震災から11年。福島県介護支援専門員協会に所属する介護支援専門員の活動と歩みをまとめた一冊が出版されました。

当事者の生の声とともに、他県の介護支援専門員にも役立つ日頃からの備えや心構え、今できること、しなければならないことは何か、自分の身近に起こるかもしれない災害にどう備えるのか、その時にどう自分の心身を守るのか、そうしたことを考えるきっかけに…。

災害時における介護支援専門員の役割

あのとこの私たち、福島で起きたこと

中央法規出版 価格：3,080円（税込）



↓ 福島県介護支援専門協議会 ホームページをご覧ください！ ↓



<http://www.fcma.jp>

福島県介護支援専門員協会 検索 スマートフォンからもアクセスできます！

法定研修案内やタイムリーな情報を発信しています。

更新研修・協会主催の研修会などの日程確認にお役立てください。

また、協会へのご意見・ご要望などお問い合わせから気軽にコメントをお寄せください。

賛助会員紹介（会員登録順）

会社名	株式会社モルテン 健康用具事業本部 仙台オフィス
住所	〒984-0038 仙台市若林区伊佐2-15-1
TEL・FAX	TEL 022-390-5131・FAX 022-288-8005
ホームページ	http://www.molten.co.jp/health/
会社名	一般財団法人 日本総合研究所 社会福祉士養成所
住所	〒984-0816 仙台市若林区河原町1-5-15-1502
TEL・FAX	TEL 022-261-7660・FAX 022-261-7661
ホームページ	http://www.nissoken.com/syafuku/index.html
会社名	中央法規出版株式会社 仙台営業所
住所	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-9-2 浜屋ビル2号館5F
TEL・FAX	TEL 022-222-1693・FAX 022-216-5087
ホームページ	http://www.chuohoki.co.jp/
会社名	株式会社あかね福祉
住所	〒963-0111 福島県郡山市安積町荒井字雷神16-1
TEL・FAX	TEL 024-937-5022・FAX 024-937-5030
ホームページ	https://www.akane-fukushi.co.jp

発 行：一般社団法人 福島県介護支援専門員協会

会 長：菊地健治

事務局：郡山市新屋敷一丁目166番 SビルB号

TEL 024-924-7200 FAX 024-924-7202 <http://www.fcma.jp>

広報グループ：仁井田義弘 伊東 靖裕 本名 由美 石井むつ美 新田 純子 柏倉 道子

小林 悟 齋藤 真尚 佐々木香織 佐藤 一行 萩原美起子 古山ひろみ